

# 海外留学、10万人時代に

海外留学する若者が増えている。2017年度には初めて10万人を突破した。なかでも最近目立つのが短期間の留学。1人で2回以上行く人も少なくない。みんなお金持ちなの？ 実は留学の合間などに国内で費用を稼ぐ人たちの多い。場所はインバウンド（訪日外国人）が集まる観光地。そこでもひたすら語学力を磨く。そんな「留学2.5」時代の若者の姿を追った。

「最初はただ英語で会話ができたらいいなと思ってたんですけど、2回の留学を終えて、今は海外で働いてみたいと思うようになりました」

大分県在住の派遣社員の阿部京華さん（30）はこう語る。そんな阿部さんが留学を決意するまでには大いに悩んでいた。「友達から留学の話聞いて、いいなと思ったんですがお金がなくて」

転機は16年2月、外国人客の多い、神戸市の有馬温泉での旅館の住み込みバイト。「働きながら英語を勉強できたらいかな」と。そこでバイト仲間の多くが留学資金をためていることを知り、ためておきたい留学が身近になった。

1年間働き、約80万円の貯金をつくれた。17年4月、フィリピンのセブ島へ。平日は語学学校に通いマンツーマン指導とグループ授業。週末は海や買い物に出かけ、実際に英語を使い、会話を磨いた。3カ月間、英語漬けの日々を過ごした後、帰国した。

国内では訪日客の多い観光地で再び住み込みのバイト生活に。場所は長

## 国内でも学ぶ稼ぐ「留学2.5」

### 2カ国＋訪日客集まる観光地

#### それぞれの留学2.5

**国内で軍資金を稼ぐ**

阿部京華さん

- 1 有馬温泉（神戸市）の旅館でアルバイト。留学資金を稼ぐ
- 2 フィリピン・セブ島で3カ月留学
- 3 ハウステンボス（長崎県佐世保市）でアルバイト
- 4 欧州のマルタに1カ月留学（手前左が阿部さん）

## 手軽にグローバルどっぷり体験

崎県佐世保市のハウステンボス。2カ月で40万円の留学資金をつくり、17年秋、今度はイタリアの夕の学校で日本人は阿部さんを入れて2人だけだ。そんな阿部さん。次は

へ。約1カ月、現地の語った。「毎日英語を使う環境で過ごして、自分の考えを表現する力が伸びる」

ワーキングホリデーのビザを取得し、海外で仕事を取得し、海外で仕事に挑むという。

オーストラリアで暮らしてみたいという。最初は全然英語が話せなくて、その話すのうくらい」という鈴木さんは宮城県出身の鈴木龍星さん（28）だ。一念発起の建設現場で働いていた

して17年1月、成田空港から飛び立った先は憧れの豪州ではなく、フィリピン・セブ島だった。

「当時は話せる英語とピンチのセブ島だった。オーストラリアで暮らしてみたいという。最初は全然英語が話せなくて、その話すのうくらい」という鈴木さんは宮城県出身の鈴木龍星さん（28）だ。一念発起の建設現場で働いていた

### 帰国後、ワーキングホリデーのビザ取得して海外で働くことを検討中

**国内でも英語力をブラッシュアップ**

鈴木龍星さん

- 1 フィリピン・セブ島で3カ月留学
- 2 オーストラリア・タスマニア島で1年間留学
- 3 岐阜県高山市の旅館でアルバイト

**国内でもグローバル感覚を磨く**

菅野智子さん

- 1 トンガに半年間留学
- 2 横浜市の懐石料理店でアルバイト
- 3 フィジーに1年間留学

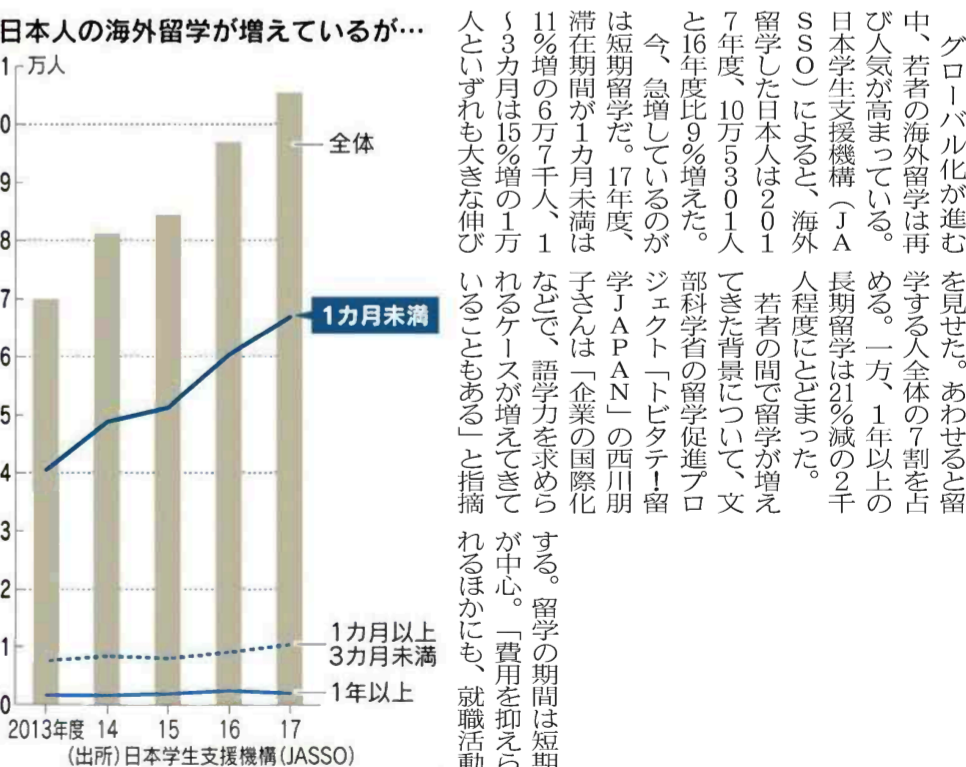
### 英語をいかせる仕事を探している

阿部さんのように2つの留学の合間に、国内で訪日客の多い観光地で住み込みバイトをして英語力を磨こうという人も目立つとか。同社では16年は4件、17年は25件、18年は40件と着実に増えている。黒崎順一郎は「留学への関心が高いうえに、2カ所を中心に需要が旺盛」と

### 大学に復帰し、来年の大学院進学をめざす

菅野さんは16年10月から半年間トンガ、18年4月からは1年間フィジーに留学した。菅野さんはオセアニア諸国の食生活を研究しており、文部科学省の支援制度などを受けた。現地でのフィールドワークにも積極的な菅野さん。トンガから帰国後、横浜の高級懐石料理店でアルバイトをした。

## 期間3ヵ月未満が7割 就活の武器に、アジアへ



グローバル化が進む中、若者の海外留学は再び人気が高まっている。長期留学は21%減の2千人程度にとどまった。若者の間で留学が増えた背景について、文部科学省の留学促進プロジェクト「トビタテ」留学JAPANの西川朋子さんは「企業の国際化などで、語学力を求められるケースが増えてきている」と指摘する。留学の期間は短期が中心。「費用を抑えたい」と見られる。短期が増えた影響で留学先もかつてと変わってきた。JASSOによると、中国や台湾、フィリピンなどアジア地域への留学生は17年度、17%増の約4万人で北米（3万人）を上回った。グローバル人材の需要が高まる中、気軽に行ける留学2.5は日本と海外の距離を縮めるチャンスをもたらす。